

くすり一口メモ

「前立腺肥大症に伴う排尿機能障害」の治療薬について

1989年、すでに降圧薬として発売されていた「受容体遮断薬塩酸プラゾシン（ミニプレス）」に「前立腺肥大症に伴う排尿機能障害」の効能が追加されました。以来、様々な「受容体遮断薬が開発され、現在「前立腺肥大症に伴う排尿機能障害」に適応を持つ薬剤は6種類8剤が発売されています。

「受容体には_{1A}、_{1B}、_{1D}のサブタイプがあります。_{1A}は前立腺、_{1B}は血管平滑筋、_{1D}は膀胱にそれぞれ多く存在しています。_{1A}受容体により選択性の高い遮断薬は前立腺の平滑筋の緊張を弛緩させ、尿が出始めるまでに時間がかかる、排尿時間が長い、最後まで尿を出し切れない等の排尿障害改善に効果があります。_{1D}受容体に選択性の高い遮断薬は膀胱の緊張を抑え、頻尿、夜間排尿、尿意切迫感、切迫性尿失禁等の蓄尿症状に効果があり、過活動膀胱も改善すると言われています。_{1B}受容体は血管平滑筋の収縮に関与し、降圧薬として用いられます。

現在発売されている前立腺肥大症に適応を持った「受容体遮断薬について下記にまとめてみました。

薬剤名	ミニプレス	ハイトラジン パソメット	エブランチル	ハルナールD	フリパス アビショット	ユリーフ
一般名	塩酸プラゾシン	塩酸テラゾシン	ウラビジル	塩酸タムスロシン	ナフトビジル	シロドシン
「前立腺肥大に伴う排尿障害」以外の効能・効果	本態性高血圧症 腎性高血圧症	本態性高血圧、 腎性高血圧、褐色細胞腫による高血圧症	本態性高血圧、 腎性高血圧、褐色細胞腫による高血圧症 神経因性膀胱に伴う排尿困難			
「前立腺肥大に伴う排尿障害」時の用法用量	1～6mg/日 分2～3	1～2mg/日 分2	60～90mg/日 分2	0.2mg/日 分1	25～75mg/日 分1	4～8mg/日 分2
主に遮断する部位	尿道平滑筋 前立腺 前立腺皮膜	前立腺 尿道 膀胱頸部	前立腺皮膜 膀胱三角部 近位尿道平滑筋	平滑筋	前立腺 尿道 膀胱	前立腺
特徴	尿道を弛緩させ、尿道抵抗を減少させる	・尿道内圧を低下させ、排尿機能障害の尿流動態を改善 ・排尿困難、夜間頻尿、残尿感などの自覚症状改善	・ノルエピネフリン刺激による尿道内圧上昇を抑制	・平滑筋の「受容体」に対し、強力に拮抗・下部尿路平滑筋弛緩作用が強い	・前立腺・尿道平滑筋、膀胱へ選択的に作用 ・前立腺肥大に起因する蓄尿症状(残尿感、頻尿、切迫感)を改善 ・尿流率などの他覚所見も改善	・血圧効果作用を示さない ・排尿症状(尿線途絶、尿勢低下、腹圧排尿)の改善 ・蓄尿症状(昼間頻尿、尿意切迫感、夜間頻尿)の改善
_{1B} への親和性を1とした時の _{1A} 、 _{1D} への親和性	1.5 3.7	0.38 1.1	0.37	15.3 4.6	5.4 16.7	162 2.95
副作用	副作用発現率(2.53%) めまい(0.67) 立ちくらみ(0.51)	副作用発現率(5.83%) めまい(2.4%) 立ちくらみ(1.93%) 貧血(0.43%) 低血圧(0.38%)	副作用発現率(5.65%) 立ちくらみ(2.38%) めまい(0.89%) 胃部不快感(0.27%) 下腹部痛(0.27%)	副作用発現率(2.2%) めまい(0.28%) ふらつき(0.17%) ・射精障害の報告あり	副作用発現率(3.28%) めまい・ふらつき(0.95%) 立ちくらみ(0.42%) 低血圧(0.42%) 胃部不快感(0.2%)	副作用発現率(44.8%) 射精障害(17.2%) 口渴(5.7%) 下痢(4.0%) 軟便(3.9%) 立ちくらみ(3.6%)
薬価	0.5m:8.8円 1mg :15.8円	0.5mg:22.1円 1mg:39.9円 2mg:81.0円	15mg:21.2円 30mg:38.0円	0.1mg:89.9円 0.2mg:178.9円	25mg:63.4円/61.5円 50mg:126.7円/122.6円 75mg:190.7円/183.6円	2mg:51.7円 4mg:102.9円

参照：薬局2006年11月号、今日の治療薬
(鹿児島市医師会病院薬剤部 服部安希子)